



社会を明るくする運動

射水市実施委員会・射水保護司会

第58回「社会を明るくする運動」

『非行・犯罪のない社会を願って
街頭宣伝活動を展開』

射水更生保護

発行・編集

射水保護司会
会長 棚元理一
TEL 0766-52-2341
〒939-0274 射水市小島700-1
大島社会福祉センター内



横断幕を張り、社明運動ののぼり旗を立て、タスキをかけ折からの真夏の

去る七月二十一日(月)海王丸パークに於いて北本・射水保護区担当主任官をはじめ保護司三十名・更生保護女性会員二十七名・BBS会員四名等六十二名の皆さんは第五十八回「社会を明るくする運動」の街頭宣伝啓発活動を展開しました。

第58回『社会を明るくする運動』



太陽の暑さをはね返すような意気込みとともに、今年は特殊インクで刷られた車のライトに反射し夜間の交通安全にも役立つ『社明運動』入りのエコバックに薬物乱用防止のティッシュ、社明メモ帳等、海の日の行事で賑わう会場で千人余りの人々に配布し、この運動の目的である犯罪・非行の防止と更生保護への理解と協力を呼びかけました。

最後に恒例の記念撮影をし、お互い青少年育成と安心安全な街づくりへの思いをあらたにし、二時間余りの街頭活動を終了しました。



この機関紙は一部共同募金の配分金を受けて作成しました。

平成二十年度定期総会開催 棚元会長を再任

平成二十年度定期総会が、去る四月二十三日、射水市小杉社会福祉会館において開催され、来賓に別所富山保護観察所長、分家射水市長代理宮林福祉保健部長、横堀射水市議会議員、中田射水警察署長、北本保護観察主任官、荒木市更生保護事業協会、石灰BBS会長、市関係部課長、更生保護女性会、市中学校長会、名誉保護司会員関係各位多数のご臨席を賜り開催された。

総会は、棚元会長が「若い青少年が過ちを犯してしまう事件が多発している中で、若者が再犯しないよう、更生させるための取り組みを今後さらにしっかりと考えていきたい」と、あいさつを述べる。

来賓の分家射水市長代理、宮林社会

福祉部長、横堀市議会議員より祝辞が述べられ、別所富山保護観察所長が更生保護の経過と現状、更生保護法が変わる中で今後の取り組みについて説明があり、今後の活躍を願って激励される。

引き続き議事に入り、議案第一号平成十九年度事業報告、議案第二号平成十九年度収支決算書、議案第三号平成二十年度保護司会役員選出について、議案第四号平成二十年度事業計画書(案)、議案第五号平成二十年度収支予算書(案)等を審議し原案どおり承認議決された。

本年度は役員改選の年に当り新役員の選出が行われた。

【新役員】

会長	棚元 理一
副会長	竹林 眞昭
理事	米澤 治夫
	三宅 陸夫
	北村 外雄
	梅崎 一江
	高松 徹
	石黒 善昭
	川口和香子
	五十嵐繁久
	炭谷 幸子
	海内 貞行
	御後 一夫

監事 寺腰 健一
谷口 繁 森 節子

【専門部会】

総務部会長	米澤 治夫
副部会長	高橋 禮子
研修部会長	三宅 陸夫
副部会長	渡辺八重子
広報部会長	五十嵐繁久
副部会長	寺腰 健一
協力組織部会長	梅崎 一江
副部会長	御後 一夫
地域活動部会長	川口和香子
副部会長	大浜 晴彦
学校部会長	北村 外雄
副部会長	炭谷 幸子
事務局長	海内 貞行
事務局次長	高松 徹

新年度にあたって

射水保護司会 会長 棚元 理一



本年度も会長職を務めることになりました。身の引き締まる思いでおります。皆様のご

指導ご鞭撻をお願い申し上げます。

今年は、射水保護司会が発足してから三年目に当たります。顧みますと、皆様方とともに統合後の保護司会運営や更生保護関連組織(更生保護女性会・BBS会・協力雇用主・更生保護事業

協会等々)の再構築に取組んでまいりました。お陰により時宜にふさわしい骨組みが出来ました。厚くお礼申し上げます。

最近、若者の犯罪は私たちの想像を超えたものがあります。また、青少年非行の遠因が家庭内にあることを家族自身が気付いていないケースも多くなっています。法務省が提唱する『社会を明るくする運動』を、今後更生保護関連組織の皆さんとともに幅広く地道に繰り広げて行けば更生保護への理解が深まり、また家庭内に潜む非行の火種や家族の絆の大切さを再確認されることとでしょう。

さて、射水保護司会は今年も『社会を明るくする運動』からスタートしました。保護司のみならず更生保護関連組織の皆様も健康に留意され、存分にご活躍なさいますようご祈念申し上げます。



更生保護活動に 対する期待

射水市長 分家 静男



日ごろ、保護司の皆様をはじめ、更生保護活動に携わっておられる皆様におかれまして

は、犯罪や非行のない明るい社会づくりや、過ちを犯した人々の指導、援助という大変困難な仕事に献身的に取り組んでおられますことに、深く敬意を表しますとともに心から感謝を申し上げます。

さて、今日の我が国の社会に目を向けてみますと、経済のめざましい発展により、かつてと比べ大変便利で豊かな社会が形成されました。しかしながら一方では、地域における人間関係の希薄化や、家庭、学校における「しつけ機能」の低下などにより、地域の犯罪や非行を抑制する力が少しずつ失われている、という指摘があります。実際に、若年層が加害者となる凶悪犯罪が相次ぎ、深刻な社会問題となっており、ますます、極めて憂慮すべき事態であると思っております。

このような社会情勢の中、更生保護活動が果たすべき役割は、今後さらに重要性を増していくものと思っております。

ます。どうか更生保護活動に携わる皆様におかれましては、今後とも自己研鑽を重ねられ、犯罪や非行の多様化に即応した、柔軟で意欲的な更生保護活動に取り組まれますよう、ご期待申し上げる次第であります。

本市といたしましても、市民の皆様が安心して暮らすことができるまちづくりに、引き続き全力を挙げて取り組んでまいりたいと考えております。

終わりに、射水保護司会のさらなるご発展と、関係の皆様の今後ますますのご活躍、ご健勝を心から祈念申し上げます。

更生保護制度改革の 一層の推進を 二度目の勤務にて

富山保護観察所長 別所 良紀



本年四月の異動で、長野保護観察所から転任してまいりました別所です。平成八・九年

度には調査連絡課長として勤務させていただきました。当時は、射水保護区の担当であり、かつ公開ケース研究会等で新湊へ、或いは更生保護女性会の会合で

出席したことや、当時多くの皆様の御支援御協力をいただいたこと等が想い出されてきます。

十年が経ち、新任務は身に余る重責ですが、保護司の方々を始めとする更生保護関係者の皆様の御支援と御協力をいただき、更生保護事業の進展のため専心努力をする所存ですので、よろしく願います。

さて、本年六月、更生保護法（以下「新法」と言います）が全面施行されました。新法の理念を示す第一条においては、更生保護の目的を、保護観察対象者の「再犯防止」と「改善更生」にあると規定しています。対象者の利益（保護）のみを追求するものではなく、再犯を防止することにより「社会の保護」を目的としており、その意味において新法は自明のことを規定したとも言えます。更生保護制度の改革の契機となったのが、保護観察対象者による重大・凶悪な再犯事件の続発であったことも忘れることは出来ません。

また、昨年十一月に公表された「犯罪白書」により、犯罪件数の約六割が再犯者によって行われており、再犯防止への取り組みの重要性が浮き彫りにされました。

特に、有職者の再犯率は一割未満ですが、無職者の約四割が再犯に至っています。このような状況を踏まえて、今後は、ますます保護観察への期待は

大きくなり、その充実・強化が求められています。

そのため、現在、当庁では就労支援として何ができるか、どうしていくかを検討し、一人でも多くの方に理解をお願いし、かつ各地区で就労支援事業協議会等の設置をお願いしています。

新法の理念を具体化できるか否かは、更生保護に携わる一人ひとりのお力添えにあります。

更生保護制度改革の一層の推進に、皆様の御支援と御協力をお願い申し上げます。

ひと回しモ

更生保護法について

更生保護法が平成20年6月1日施行されました。これまでの犯罪者予防更生法と執行猶予者保護観察法を整理統合して一本化しつつ、更生保護機能の充実・強化を図り、より強靱で実効性の高い保護観察（社会内処遇）を実現するものです。

再犯や非行の防止と対象者が善良な社会の一員として自立と改善更生を助ける事を目的としています。

具体的には今までの保護観察がより厳密に厳しく行われるようになり、遵守事項や転居・旅行手続きなども厳しくなり、また各種報告書の様式も変更になります。

射水市更生保護女性会設立総会『新中孝子さん初代会長に選任』

去る五月十七日、射水市新湊交流会館にて、射水市内更生保護女性会会員八十人が出席し、設立総会が開かれました。

旧新湊更生保護女性会と旧射水市更生保護女性会射水地区が統合する『新射水市更生保護女性会』の設立総会及び平成二十年度事業計画、平成二十年度予算が審議されました。

設立総会は、設立までの経過報告を森設立準備委員より報告され、分家射水市長、棚元保護司会長、富山保護観察所長代理中村統括保護観察官より祝辞と激励の言葉がありました。

矢野市社会福祉協議会長、中田射水警察署長代理松長様、石灰BBS会長、村田青少年市民育成会長、関係各位多数の来賓を迎え盛大に開催されました。議長に棚元静江さんを選出し議事に入り、



一、更生保護女性会則(案)について
二、新役員を選任について
を審議し、いづれも原案どおり承

認議決され、新しく射水市更生保護女性会が発足されました。引き続き、
三、平成二十年度事業計画(案)
四、平成二十年度予算(案)
が承認、議決され平成二十年度の活動が本格的に始動しました。

新役員

会長	新中 孝子	副会長	川口和香子	書記	道古 正子	監事	土居アツ子	相談役	浦上 淑子	理事	堀田 紀子	小井 孝子	宮下 昭子	松井 光子	小川 清美	門田 宣子	前田由美子	穴田 信子	岩井 洋子	奥村 篤子	北村 雅子	高坂みのり	東保佐代子	藤原 康代	◎河畑富美子	◎岩脇 明美	◎尾山 範子	◎是松 好美	◎森田 則子	◎三田 英子	◎中村 艶子	◎池田なか江	◎大伴せつ子	◎尾山 京子	◎久々江とみ子	◎清水 吟子	◎直江みどり	◎宮本香代子	◎西野 慶子	◎竹内美智子	◎芝田 浩子	◎林 弥生	◎南 英子	◎荒木茉莉子	◎福田 靖子	◎石黒ヒロ子	◎小川 馨	◎金子 直美	◎小泉多喜子	◎杉原すみ子	◎波 政枝	◎理事役員
----	-------	-----	-------	----	-------	----	-------	-----	-------	----	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	---------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	-------	-------	--------	--------	--------	-------	--------	--------	--------	-------	-------

第27回射水市中学生生活体験発表『本江優実さん(奈古中)県大会へ』

第五十八回、社会を明るくする運動の一環として行われた、射水市中学生生活体験発表大会は去る五月二十九日、射水市新湊西部中学校で開かれ、市内全中学校七校の代表者が出場し、日常生活や学校生活を通じ身近に起きた問題や体験したことを五分間の持ち時間で意見を述べました。

本年度は、新湊西部中学校で開催され、司会・進行は同校生徒会が担当し、司会は生徒会副会長矢野都美さんが務めました。棚元保護司会長のあいさつにつづいて射水市中学校校長会会長山崎美克様から激励の言葉を受け、七名



の代表者が競いました。審査員は射水市教育センター所長高島雅之氏他、射水保護司会四名が審査を行いました。審査時間を利用してサックスホーン演奏を境文夫保護司の生演奏とミニトークを交え、全校生徒や保護者、出席者全員に楽しく聴かせ鑑賞しました。高島雅之教育センター所長の講評に続き審査結果発表が行われました。

射水市代表に「みんなで乗り越えよう」と題し発表をした奈古中学校三年本江優実さんが県大会出場に決まりました。

市代表として七月十二日富山市ポルファートとやまで開かれた第四十六回富山県中学生生活体験発表大会に出場しました。

他の発表者は次の皆さん

大門中二年 木澤 香奈

『地域という名の家族』

小杉中三年 片境 紗希

『音楽』から学んだこと』

射北中三年 崎田 晴花

『手術が教えてくれたこと』

新湊南部中二年 旅家 美月

『叔母から学んだこと』

小杉南中二年 高波 陽花

『おいしいちゃんから学んだこと』

新湊西部中三年 七谷 麻友

『心の瞳をひらいて』

第58回『社会を明るくする運動』 射水市実施委員会開催される

例年七月は全国的な展開として『社会を明るくする運動』の強調月間であり射水市に於いても今年二十一の構成機関及び団体で成る実施委員会が六月六日射水市中央図書館で開催された。

実施委員会委員長・分家射水市長、主唱者・棚元射水保護司会長より挨拶の後、議事に入り米澤総務部会長より平成十九年度の実施結果報告、次いで平成二十年度（第五十八回）『社会を明るくする運動』実施の要綱・要領案・その他について協議した結果、今年の『社会を明るくする運動』が昨年の素晴らしい実績の上に更なる成果をあげるよう全員決意も新たに閉会となりました。



第58回『社会を明るくする運動』 法務大臣・県知事 メッセージ伝達式実施

七月一日、射水市長応接室・射水市議会議長応接室に於いて第五十八回『社会を明るくする運動』法務大臣及び富山県知事よりのメッセージ伝達式が行われました。

当日は各室に於いて、棚元射水保護司会長・竹林・石黒副会長・高松事務局次長他の立会のもと棚元会長より声高らかにメッセージが読み上げられ、式は厳粛なうちにとどこおり無く終了しました。

一同この運動の意義及び趣旨に賛同すると同時に改めて更生保護に於けるその役割の重大さを痛感しました。



本江さん北日本新聞社長賞―富山県中学生生活体験発表大会―

去る七月十二日、ボルファートとやまを会場に『社会を明るくする運動』の一環として非行や犯罪のない社会を目指し第四十六回県中学生生活体験発表会が開かれた。

一人五分の持ち時間で、各地区で優秀な成績を収めた十七人に混じって射水代表本江優実さん（奈古中）は、『みんなで乗り越えよう』と題し言葉の抑揚に気を使いながら時にジェスチャー

も交え見事な発表で、会場の多くの人に共感と感動を与えました。

審査の結果、惜しくも最高賞は逃したものの見事、北日本新聞社長賞に輝きました。



更生保護の発展を願う

岩口和義

私は、五月に保護司を任期満了で退任いたしました。在任中は公私にわたり大変お世話になりました。厚くお礼を申し上げます。偏に先輩諸代の温かい支援と更生保護関係機関のご指導・関係諸団体からの力添え協力賜物と感謝しています。

複雑な社会状況下にあつて、犯罪や非行が一段と多様化、凶悪化、広域化、低年齢化等の傾向がすすみ、社会の関心をあつめ、今日的な課題となつてい

る反面、犯罪や非行を犯した者の改善・更生や犯罪を非行を犯さない予防活動への関心や協力は今一つだと思ひますし、更生保護関係団体の活動も益々困難の度を増してきていると思ひます。

更生保護制度が施行されて六十年、社会を明るくする運動が本年第五十八回を数えましたが、法に明記されている「国民は、その地位と能力に応じた寄与をするように努めなければならない」といし等々の責務の周知が十分でなく、その啓発が期待され続けています。

幸い、六月に「更生保護法」が施行されましたのを機に、平成十一年施行の改正「保護司法」の周知と共に更生保護の重要性和その拡充・推進に明るい兆しが見られると思ひます。

「社会を保護し、個人及び公共の福祉増進」に日夜努力しておられる更生保護関係者、特に保護司の皆様には大変なことと思いますが、犯罪や非行からの立ち直りを信じ、支えていくために、熱意と愛情・慈悲の心でできることから一歩（行動）をはじめて社会の期待に応えて下さい。居心地のよい社会を築くためにお願ひします。

皆様のご健勝とご繁栄を祈念し、更生保護の益々のご発展をご期待申し上げます。

家庭の不用品交換で社会のために ―射水市更生保護女性会 射水各地区女性部・婦人会―

七月二十日射水市働く婦人の家を会場に各家庭から寄付を頂いた品物を販売し、収益金を社会福祉や不幸にして罪を犯してしまった人の更生を援助する事を目的に不用品交換会が開かれました。



当日は併せて社明運動の一環としてエコバックと共に社明運動の啓発パンフレットも配られ、盛会のうちに終了しました。

六・二六ヤング街頭キャンペーン ―アルプラザ小杉で開催―

七月六日(日)多くの人々で賑わうアルプラザ小杉に於いて、富山県薬物乱用「ダメ。ゼッタイ。」普及運動の一環として高

校生、ボーイスカウト、ガールスカウト他関係の組織を動員し、(射水保護司会から高松・寺腰



の二名が参加)街頭キャンペーンが実施されました。

啓発のパンフレットを配布すると同時に募金も行われました。多くの大人に混じって募金に協力する幼児の姿はとても微笑ましい光景で、参加者一同薬物乱用防止の誓いを新たにしました。

岩口和義氏に法務大臣感謝状

六月六日、中央図書館に於いて五月に退任された岩口和義氏の永年のご苦労に対し富山保護観察所八木企画調整課長より法務大臣感謝状の伝達が行われました。



◆事務局日誌◆

平成20年	4月4日	第一回理事会（協議事項・総会）
	23日	平成20年度射水保護司会定期総会
	23日	第一期地域別定例研修会
	23日	研修部会（自主研修の在り方について）
5月9日		第二回理事会（協議事項・当面の諸行事実施

保護司の異動

○退任保護司(平成二十年五月二十四日付)

岩口 和義
(平成二十年五月二十四日付)

高野 章
永きに亘りご苦労さまでした。

について)

12日	第58回社明運動・県実施委員会
20日	県保護司代表者会議・県保護連理事会
27日	県広報部会編集会議
29日	第27回射水市中学生生活体験発表大会
6月3日	地域活動部会・広報部会合同研修会(58回社会を明るくする運動実施要領について)
6日	第58回社会を明るくする運動・射水市実施委員会
13日	研修部会・自主研修の在り方
26日	第二期地域別定例研修及び自主研修
27日	平成20年第一回協力組織部会(富山県保護司会連合会・梅崎部会長出席)
7月1日	第58回社会を明るくする運動・法務大臣・知事メッセージ伝達
1日	第一回総務部会

編集後記

射水更生保護も号を重ね五回目の発行になりました。紙面作り等慣れない仕事に戸惑いながら五十嵐部会長の指導の下何とか発行に至りました。原稿を頂きました各位に深く感謝申し上げます。別所所長の挨拶でも述べられたとおり更生保護法の改正に伴い保護観察がさらに厳しく厳密に実施されるようになっています。然しながら相変わらず様々な事件がマスコミを賑わしているのがたいへん気になるところで、射水保護司会をはじめ関係の協力団体一致して犯罪のない明るい社会を築いて行きたいものです。(記 寺腰)

おかえり。

人は、変わることができる。
そう信じることから
更生保護はスタートします。
あやまちをくり返すことのないように、
犯罪や非行からの立ち回りを
社会の一人ひとりが支えていく。
更生への希望は、
あなたの「おかえり」から生まれます。

更生保護は、犯罪・非行を防止、立ち回りを社会の力で支えていく活動です。
http://www.shizue-shimizu.net/ www.shizue-shimizu.net/ www.shizue-shimizu.net/

社会を
明るくする
運動

○慶弔(おくやみ)

保護司

平成二十年三月	小島 定俊
平成二十年五月	倉谷 昭吉
平成二十年五月	三橋 友雄
平成二十年五月	林 要